MIZUNO Since 1950
～建築は、建てることより育てること～
vol.176

MIZUNO"旬感(しゅんかん)"だより

令和３年10月号

ジョウ・みの(る) ゆた(か)
穣
たくさん実る
いのる・繁栄する

〈**旬のレシピ**〉ご飯もすすむ!カボチャやサツマイモの韓国風きんぴら。カボチャやサツマイモを太めの千切りにして(サツマイモは水にさらす)ゴマ油で炒め、火が通ったら醤油・酒・みりん・コチュジャンを同量ずつ混ぜたものをからめ、味がなじんだら完成。黒ゴマを振ってどうぞ!

今月の言葉

『〃最幸〃の片付け』
(あえて〃最高〃ではなく〃最幸〃にしました)

**〃最幸〃の片付けとは、
取捨選択し空間を整えることだと思います。
今は、急がない。
今は、必要としない。
けれど、将来重要なことを、今どう片付けるか。
モノ・コトの取捨選択で、何を残し、何を捨てるか。
信用、名誉、お金、愛情・・・人それぞれ。
取捨選択する上での判断基準が、
その人をはかる物差しとなるのでしょうね。
自粛生活が教えてくれるものがあるとしたら、
様々な面で取捨選択し、空間を整えることではないでしょうか。**

**今年もそろそろ新しい年を迎える準備を始める時期ですね。
新しい年が自分にとって〃最幸〃に近付くよう、
少しずつ身辺の片付け、心の片付けをしようと思います。**

毎朝、出社して、日めくりカレンダーをめくるのが私の日課です。日付と標語が書いてあります。例えば13日は、

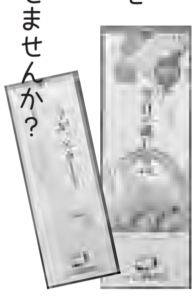
「得る」より「捨てる」が先
古い知識や経験へのこだわり、心配や恐れ等の雑念が、出足や決心を鈍らせる。未練や執着はさっぱりと捨て、新しい今日を築こう。

『最幸の片付け』の気付きは、こちらの標語からヒントをいただいた気がします。

水野博旨

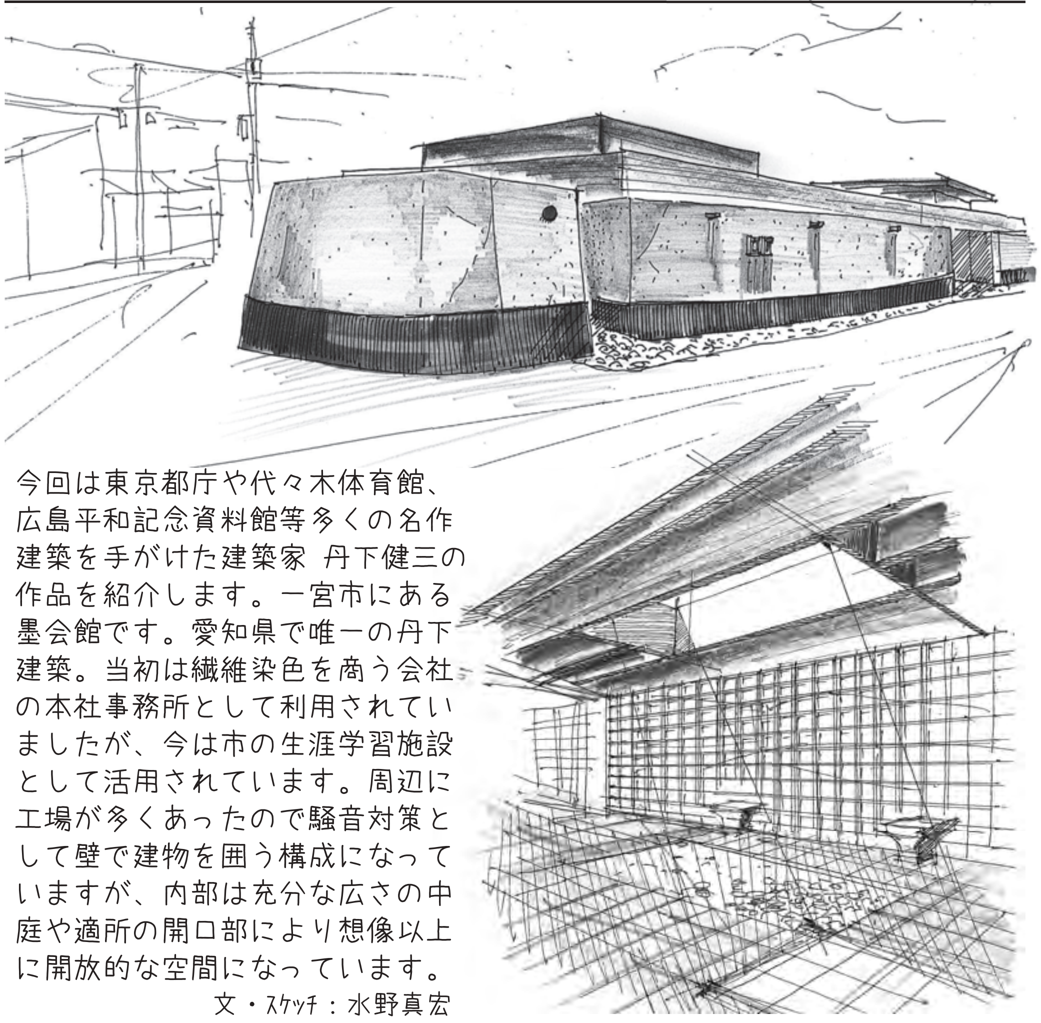
お知らせ

毎年ご縁のあったお客様にお届けするこのカレンダー。新年にプレゼント企画を準備しておりますので、ご希望の方は楽しみにお待ちください！来年はこれをめくって一日をスタートさせませんか？



一冊あれば、何年もご愛用いただけます！

空間設計 ミズノ のデザイン記録 vol.56



今回は東京都庁や代々木体育館、広島平和記念資料館等多くの名作建築を手がけた建築家 丹下健三の作品を紹介します。一宮市にある墨会館です。愛知県で唯一の丹下建築。当初は繊維染色を商う会社の本社事務所として利用されていましたが、今は市の生涯学習施設として活用されています。周辺に工場が多くあったので騒音対策として壁で建物を囲う構成になっていますが、内部は充分な広さの中庭や適所の開口部により想像以上に開放的な空間になっています。

文・スケッチ：水野真宏

伝統再築士による 古民家＆日本建築講座

伝統再築士とは…次世代に引継ぎたい文化的価値の高い木造物を残すための専門家

10/21は"あかりの日"
1879年(約140年前)のこの日発明家エジソンが世界で初めて実用的な白熱電球を完成させたんだよ。

私たちの暮らしに欠かせない照明。電気を使用した光の大成功は、世の暮らしを一変させたでしょうね。エジソンは1879年10月21日に、木綿糸を炭化させたフィラメントを使い、白熱電球の約14時間連続点灯に成功しました。しかし、商品化には最低600時間の点灯が必要と考え、世界中から6000種類の材料を取り寄せて試したのですがうまくいかず、たまたま研究室にあった扇子に使われていた竹を炭化させて作ったフィラメントを使ったところ、200時間点灯したのです。それから、素材を竹に絞り1200種類もの竹で実験したというのだから、やはり自他共に認める"努力の人"だったのですね。
その後、エジソンの助手が来日した際、京都府八幡村(現・八幡市)に良質な竹があることを知り試したところ、1200時間以上の点灯に成功しました。これにより、白熱電球は製品化され、世界中で大ヒット。新素材のフィラメントが開発されるまで10年以上の間、京都の竹が使われていたようです。こんなところに日本の素材が活躍していたなんて、嬉しいですね。

不動産もミズノへ！

創業1950年の信用と実績を礎に、
不動産業にも力を入れてまいります。
どうぞお声掛けの程、
よろしくお願いします。

ポスティングや発送準備作業の際は、手の消毒や手袋着用など、できる限りのコロナ感染防止対策をしています。このお便りが皆さんのお役に立てれば嬉しいです。

暮らしのヒント

秋の衣替えのポイント！

①最低気温が18℃を下回りはじめたら衣替えの時期。

雨の日に衣類が湿気を含んだ状態で収納してしまうと、中でカビが発生しやすくなります。天気の良い日に窓を開け、風通しを良くして衣類を入れ替えましょう。
その際、押入れや収納場所も風を通すといいですよ！

②"しまい洗い"を忘れずに。

必ず洗濯やクリーニングに出してからしまいましょう。一見きれいにみえても、汗や皮脂汚れが残っていることが多く、保管中に酸化して黄ばみの原因になります。
クリーニング後はビニールカバーを外し、風を通してから収納しましょう。カバーを付けて収納する時は、不織布のカバーに換えることをおすすめします。（ビニールは埃が付きやすく、風通しもよくないので）

③体温調節に使えるアイテムは出しやすい場所に。

朝晩は涼しくても、日中は25℃超える日もあります。体温調節に使えそうなものは、取り出しやすいところに置いていくと便利です。かごなど使って見える収納も◎

④ついでに要・不要の仕分けをするいい機会です！

しまう前に「いる？いらない？」を聞いて、いるものだけを収納していきましょう。迷ったものは"保留BOX"を設けて次の機会まで一旦保管するといいですよ。

【第67回ミズノメセナイベントは中止致しました。】

9月18日に予定しておりました第67回ミズノメセナイベント"朗読ライブ～ごんぎつね～"は、緊急事態宣言の発令に伴い開催を中止させていただきました。参加を楽しみにされていた皆さまには残念な思いをさせてしまいましたが、改めて開催できる日を楽しみにお待ちください。一日も早くこの事態が収束し、安心して音楽など楽しめる日常が戻ることを願うばかりです。

ミズノ よもやま話

『"新米"のはなし』

今年もやってきました!! 実りの秋。皆さん、新米はもう味わいましたか？

ふっくらツヤツヤほのかな甘み、日本人でよかったと思わずにはいられません。食品表示基準によると、秋に収穫して、その年の12月31日までに精米され包装されたお米が新米と表示されます。年明けまで店頭に出回りそうですね。

ところで、職場などで新人さんのことも『新米』と呼びます。由来が気になって調べてみたのですが、どうやらお米とは関係ないようです。

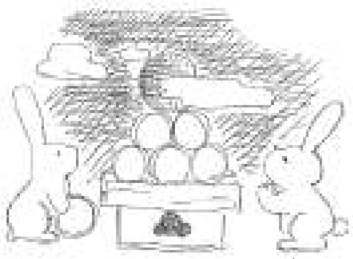
もともとは「新前（しんまえ）」と呼ばれ、後に音が変化して「しんまい」となったため「米」という字が当てられたと言われています。「前」という字には、「それらしいもの、それらしいこと」という意味があり、例えば「男前（男らしいこと）」「江戸前（江戸風のもの）」という感じで「新前（新しいもの）」と呼ばれたのです。

又、江戸時代に新人の奉公人は新しい前掛けを着用していたことから「新前掛け」と呼ばれ、これが「新前」と略され、さらに誤って「しんまい」と呼ばれるようになり「新米」という漢字が当てられたとも言われています。確かに、不慣れな新人さんは何色にも染まってない、真っ白なお米のよう。「まい」の当て字が「米」なのは納得です。

旬のはなし

10月18日は十三夜

～十三夜ってどんな日？～



十五夜の中秋の名月ともう一夜、「後の月」と呼ばれる旧暦9月13日の十三夜も、名月として月を愛でる楽しみがあります。今年は10月18日。この頃に収穫される作物にちなんで、"栗名月"や"豆名月"と呼ばれ、十五夜と十三夜を併せて"二夜（ふたよ）の月"とも呼ばれています。十五夜は中国から入ってきた習慣ですが、十三夜は日本オリジナルの習慣のようで、十五夜を眺めて十三夜を見ないのは片見月（かたみつき）といって縁起がよくないとされていました。
お団子の数が十三夜は13個、他に栗や豆など収穫物や秋の七草、魔除けの力があるというススキを飾り月の光を当てます。十五夜と同じ場所で月見するとより縁起が良いようです。

十三夜は十五夜に次いで美しい月の形。これから満ちていく、縁起のよい月です。

栗は他のナッツ類より脂質が少なく、食物繊維や老化防止のビタミンB2・C、高血圧予防や動脈硬化に効果的なカリウム、ポリフェノール葉酸など意外と栄養価が高いのです！

まだ続く自粛生活。秋の夜長、ただただゆっくり月を眺めるのもいいですね！

『月が綺麗ですね』＝『I love you』の意味があるって?!

「月が綺麗ですね」が「愛しています」の意味を指すようになったのは、夏目漱石に由来するといわれています。漱石が英語教師をしていたころ、生徒が「I love you.」を「愛しています」と直訳したところ、「日本人はそんなことは言いません。"月が綺麗ですね"とでも訳しておきなさい」と言ったそうです。これが今に伝わり"月が綺麗＝愛の告白"とされるようになったとか。どんな言葉でお返事したらいいでしょう。このエピソードは実話かどうか定かではないようですが、こんなロマンチックな話が長く語り継がれているなんて素敵ですね。
ただし、この告白は"月が出ていない日は使えない""意味を知らない人には使えない"ので、ご注意下さいね！

ミズノ イチ押し店紹介

本との出会い…豊かな時間

正文館書店

～その参～

『紙派？デジタル派？』

みなさん、どっち派？

"どちらが良いのか、共存はできるのか。本屋としては悩むところ。一方に偏らず、どちらも正しく使えるのが理想では。"とのことで、そんなことを考えるきっかけになるような本をご紹介頂きました。

「わたしのなつかしい一冊」池澤夏樹・編（毎日新聞出版）
人気作家ら50人が何度も読み返す〈人生の一冊〉を語ります。本の内容だけでなく装丁や紙の質感、当時の環境、すべてが合わさってその人だけの一冊ができあがっており、紙の本の底力を感じました。

「デジタル・ミニマリスト　スマホに依存しない生き方」
カル・ニューポート（早川書房）
いまやどこに行っても、誰もがスマホを見ています。便利なスマホですが、いつのまにか大切な時間や集中力を奪われていませんか？

「デジタルで読む脳 × 紙の本で読む脳」
メアリアン・ウルフ（インターシフト）
電子書籍やデジタル教材が人々に定着しつつある今、『読む』という行為はデジタルと紙、どちらがよいのか。読み方はどう変わるのかを解説しています。

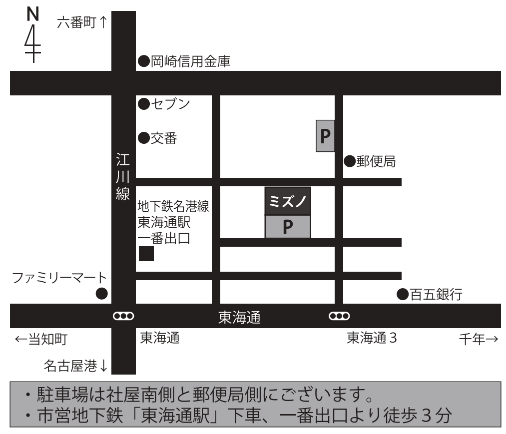
私は基本的には"紙派"ですが、持ち歩きに便利なタブレットも愛用中。いいとこ取りしてます！

正文館書店本店
名古屋市東区東片端町49番地
TEL052-931-9321
営業時間10:00～21:00
年中無休（元日を除く）
http:www.shobunkanshoten.co.jp/

知立八ツ田店
長久手フレンドタウン店
緑区グリーンプラザ店
各店舗情報はこちらから
ご覧になれます。→
Facebook

MIZUNO
Since 1950

住宅・店舗の設計・施工・監理
株式会社 ミズノ
〒455-0001
名古屋市港区七番町５丁目３番地
TEL：052-652-6886
FAX：052-661-0653
Web：www.mizuno1950.co.jp
Mail：mizuno@mizuno1950.co.jp
0120-387-312



・駐車場は社屋南側と郵便局側にございます。
・市営地下鉄「東海通駅」下車、一番出口より徒歩３分

一級建築士事務所
空間設計 ミズノ
〒461-0025
名古屋市東区徳川一丁目１０－３
名古屋陶磁器会館２階２０４号室
TEL：052-982-8316
FAX：052-982-8357
Web：www.mizuno-architects.com

住宅設計・デザインリフォーム・商店設計
コンバージョン（用途変更）・など

・最寄の駅　市営地下鉄　桜通線　高岳駅（徒歩２０分）
・最寄りのバス停　市バス　赤塚バス停・赤塚白壁バス停